つくば教会だより 2020 年２月号

編集:カトリックつくば教会　〒305-0834 茨城県つくば市手代木 261-6
TEL 029-836-1723　FAX 029-836-4136
ホームページ http://www1.accsnet.ne.jp/~mikokoro/

「灰の水曜日」

２月には「灰の水曜日」があります。と書いて、もしかしたらと思い、典礼のカレンダーを調べたら、2015 年～2026 年迄の12年間に「灰の水曜日」が 3 月になることが 4回もあります。でも、その中で一番遅いのが 3 月 6 日ですから、まぁ大体2 月と言えましょう。

「灰の水曜日」は、四旬節が始まる日ですので、額に灰を受け、回心とへりくだりの心をもって良き復活祭の準備ができますように祈ります。

また、四旬節は洗礼準備の期間でもありますので、復活祭に洗礼を受ける方々のために、「灰の水曜日」の次の日曜日に洗礼志願式が行われることが多くあります。

そして、私たちの心と身体を養ってくれる食事をはじめ、神様から頂いているあらゆるたまものに対する感謝を深めるために、「灰の水曜日」と聖金曜日には、肉を避け、食事も普通の半分にする断食をいたします。それによって、感謝の心と節制の心が養われることを祈りたいと思います。

つくば教会担当司祭　山田 宣明

****

■信徒会より

◇新成人の祝福について

今年は１名だけでしたが、1 月 12 日（日）10 時半の日本語ミサの中で、“新成人の祝福”を行いました。おめでとうございます。

◇コングレガシオン・ド・ノートルダム(CDN)修道会調布修道院竣工祝別ミサについて

つくば教会におられるシスター方が所属される CDN 修道会の調布修道院竣工ミサが 1 月 10 日（金）に菊地功大司教の司式により行われました。修道会の創立者マルグリット・ブールジョワの生誕 400 周年とも重なって約 200 名の参加者が全国から集まり、つくば教会からは岩堀信徒会長はじめ 7 名がミサに参列しました。

聖マルグリット・ブールジョワの生涯については既に特別寄稿（その１）として、本紙の昨年 12 月号に掲載しましたが、特別寄稿（その２＆３）を今月号に掲載しましたので、お読み下さい。

また、同修道院から新たにいただいたステンドグラスを祭壇正面の明かり取り窓に設置することにしています。設置工事の完了は 3 月上旬を予定しております。

調布修道院ﾏﾙｸﾞﾘｯﾄ・ﾌﾞｰﾙｼﾞｮﾜ聖堂

◇新旧合同役員会の報告

1 月 19 日（日）ミサ後、新信徒会長に選出された桑原直己さんをはじめ新旧役員が一堂に会して、2019 年度行事および事業の報告と 2020 年度の行事および事業の計画について取りまとめました。

2019 年度の役員および信徒会各部会の活動担当者の皆様、一年間ご協力いただき、ありがとうございました。

役員会の席上において、シスター東城から、1 月下旬から調布修道院に移られるとの挨拶がありました。シスターには 3 年前につくば教会に来られてから色々とお世話になっておりましたが、毎週火曜日の「シスターによる聖書で祈る集い」も残念ながら終了することになりました。長い間、本当にありがとうございました。

◇四旬節黙想会について

今年の四旬節黙想会は「四旬節第一主日」とその前日にあたる 2 月 29 日（土）および 3 月 1 日（日）に行われます。今年は黙想会講師として渡邉裕成神父様にお願いしております。黙想会のスケジュールの詳細は 4 ページの行事予定表でご確認ください。なお、「赦しの秘跡」は 2 月 29 日（土）のミサ終了後から 20 時までと、3 月 1 日（日）日本語ミサ前の 9 時 30 分から 10 時 20 分となります。

また、第 3 講話終了後に渡邉神父様を囲んで昼食会を行います。参加費は一人 500 円ですが、参加ご希望の方は掲示板に氏名をご記入ください。

渡邉裕成神父略歴

筑波大学の学生の時に科学万博があり、新しくできたつくば教会に通う。筑波大卒業後、メリノール会の信徒宣教者としてネパール・カトマンドゥにあるチベット難民キャンプに派遣されて、キャンプ内の小学校で 2 年半、算数を教える手伝いをする。帰国後、神学校に入り、
1996 年司祭叙階、横浜教区司祭
2009 年ドミニコ会入会
現在、ドミニコ会の押田成人師が始めた高森草庵にて宣教司牧

◇ブライアン神父様のつくば教会訪問について

新しく神父になられたブライアン・マルネグロ神父様が 2 月 2 日（日）につくば教会を訪問されます。当日は 10 時半からブライアン神父司式による日本語・英語合同初ミサが行われます。

ミサ後、国際部主催の歓迎パーティーがありますので、奮ってご参加ください。

なお、当日は車が混み合うと予想されます。臨時の駐車場として元ゲームセンターR408 駐車場（40 台余り駐車可）を借りますので、ご利用ください。

◇灰の水曜日ミサについて

灰の水曜日の日本語ミサは 2 月 26 日（水）10 時から、英語ミサは同日 19 時から行われますので、ご確認ください。

■各部会より

◇堅信式およびそのための勉強会について

令和 2 年 7 月 12 日(日）に、さいたま教区山野内倫昭司教様の司式により、堅信式が行われます。カトリックの洗礼後、まだ堅信を受けていない令和 2 年度中学 1 年生以上の方が対象です。お申し込みは山田神父様、Sr.高橋 、典礼部小川までお願い致します。締め切りは 3 月 29 日(日)です。

勉強会は下記の全 6 回（土曜日 14：00～15：00）です。ご都合の悪い日程に関しては、Sr.高橋香久子にご相談ください。

4/4　私の神様・イエス様
4/25 イエスの死
5/9　イエス・キリストの復活
6/6　復活のイエスのイメージ「私の使命」
6/20 三位一体と聖霊の賜物
7/4　教会って何だろう「7 つの秘跡」　（典礼部）

◇折りたたみ式椅子の交換

教会で使用している折りたたみ式椅子の破損が気になっておりましたが、信徒の方から 10 脚の新しい椅子を寄付していただきました。ご寄付いただいたことに心から感謝申し上げます。

（総務部）

****

◇茨城カトリック女性の会総会
＆講演会のお知らせ

今年度の女性の会の総会は以下の要領で行われます。
日時：3 月 7 日（土）
13 時から講演会
15 時からミサ
場所：友部修道院
講演会：講師 松浦悟郎司教
「パパ様からたくされたもの」
（使徒職協議会）

◇枝の回収について

2020 年の『灰の水曜日』は 2 月 26 日です。昨年の枝は 1/12(日)～2/16(日)に回収しますので、聖堂入り口の回収箱にお入れください。　（典礼部）

■信徒動静

◇転出　リャリン 暁湖さん、リャリン真理愛さんが、札幌教区北十一条教会へ転出されました。どうぞお元気で。

◇帰天 アントニオ 濱元 直(なおし)さんが 2019 年 12 月 6 日、マリア パウラ 藤田 なつ子さんが 2019 年 12 月 15 日に帰天されました。お二人の永遠の安らぎと残されたご家族の平安と慰みを、どうぞお祈りください。

2020 年　2 月　典礼当番表

	2/2	2/9	2/16	2/23
侍　　者	国際部	市川 メリー 市川アキヒロ	酒井 エリ 新田 百恵	有田 華 有田 亮
聖体奉仕者	国際部	岩堀 隆子	大門 建夫	浜口 景子
案　内　係	国際部	神保 教広	中島 恵	Sr.都成
先　　唱	国際部	加藤 良子	小原 謙二	桑原 直己
オルガン	国際部	林 采希	小山 光	田中 淳子

教会費の納入について

教会では、「教会費」を納入いただくことが信者の守るべき義務の一つになっております。納入額に目安は、収入の約３％ですが、各自の事情に合わせて、ご無理のないようにお願い致します。

１．教会費の種類

① 教会維持費　：　司祭の生活費、教会を維持管理するための経費及び布教活動費、その他経費
② 建設費　　：　聖堂、司祭館、その他の設備等の改築・修繕など
③信徒会費　　：　信徒相互の親睦、活動等の費用（個人の方は 500 円、家族の方は 1,000 円）

２．納入方法

・所定の納入袋とその中には、納入カードが用意されています。納入カードには、ボールペンで上記の教会費のそれぞれの納入金額・氏名・連絡先を記入の上、納入金とともに納入袋に入れて、聖堂内の聖水のそばにある木箱に投入してください。また、日曜ミサなど 1 階事務室が開いている時には、事務室内の金庫に投入することもできます。
・領収済みの納入袋は、ザビエルホールへの通路の右側の返却ボックスに返されますので、各自お受け取りください。
・教会での納入が難しい方には下記の郵便口座が用意されています。なお、郵便局に振り込まれたものは全額「教会維持費」とさせていただきます。
郵便口座番号：１０６２０－３８８２４６６１　カトリックつくば教会

３．その他

・ミサ献金のほかに指定・特別献金がミサの終わりに集められることがあります。
これらは指定された日（毎月の教会だよりの行事予定表に記載）に特別な意向のために行われる献金です。

以上について、ご不明の点や疑問点がありましたら、遠慮なく会計担当にお尋ねください。

行事予定表　　2020 年 2 月

		ミサ・典礼		学校・会議・講座・勉強会	
日付	曜日	時刻	行事内容	時刻	行事内容
1	土	18:00	ミサ		
2	日	10:30	日本語・英語合同初ミサ （ブライアン神父司式）	ミサ後	歓迎パーティー（国際部主催）
5	水	19:00	ミサ		
7	金	10:00	初金ミサ	10:45	聖書に親しむ会（午前の部）
8	土	18:00	ミサ		
9	日	8:00 10:30	英語ミサ ミサ（聖体奉仕者任命式）	9:00 10:15 ミサ後	手話サークル 日曜学校 教会清掃（全員）
12	水	19:00	ミサ		
13	木			10:30 19:00	聖書講座（シスター景山） 聖書に親しむ会（午後の部）
14	金	10:00	ミサ		
15	土	18:00	ミサ		
16	日	8:00 10:30 15:00	英語ミサ ミサ スペイン語ミサ	ミサ後 11:30	聖歌隊練習 定例役員会 **「枝の回収」の最終日**
19	水	19:00	ミサ		
21	金	10:00	ミサ	10:45	聖書に親しむ会（午前の部）
22	土	18:00	ミサ		
23	日	8:00 10:30	英語ミサ ミサ	9:00 9:00	手話サークル 教会清掃（国際部）
26	水	10:00 19:00	灰の水曜日ミサ（大斎、小斎） 灰の水曜日英語ミサ		
27	木			19:00	聖書に親しむ会（午後の部）
28	金	10:00	ミサ		
29	土	18:00	ミサ **四旬節黙想会** （指導；渡邊裕成神父） ・ミサ中　第一講話 ・ミサ後　ゆるしの秘跡	13:00	教会だより編集会議
3/1	日	8:00 10:30	英語ミサ ミサ （特別献金「四旬節愛の献金」） **四旬節黙想会** （指導；渡邊裕成神父） ・ミサ中　第 2 講話 ・ミサ後　第 3 講話	第 3 講話後	渡邊神父様を囲んで昼食会

✝ 3 月の予定　　3 月 1 日から 3 月末まで初聖体申し込み（4 月 19 日：初聖体勉強会開校式）

＊毎日曜日 9：15～10：15　シスターによる若い人との分かち合い（ザビエルホール）
＊毎金曜日 9：00～10：00 聖時間）

コングレガシオン・ド・ノートルダム修道会 創立者生誕 400 周年特別寄稿（その 2）

「聖マルグリット・ブールジョワ　真の自由への教育」

1. ケベックに到着したマルグリットの最終目的地は、セントローレンス川をさかのぼったモンレアルでした。共に船旅をしたメゾンヌーヴ氏と兵士、モンレアルから一行を迎えに来ていたジャンヌ・マンスは、すぐさま川を上る旅を続けましたが、マルグリットは病気の兵士たちと共に残りました。特別扱いを避け、喜んで彼らと共に小屋に滞在することを選んだ彼女は、これから始まろうとするモンレアルの生活でも、いつも人々と同じ様であることを望んでいました。船旅の間、彼女のこの姿を見逃がさなかったメゾンヌーヴ氏は、ジャンヌ・マンスへの手紙の中で、マルグリットの徳と知性を絶賛し、共に働く者たちの宝となるであろうとまで言っています。また、困難な旅の中でもユーモアのセンスを失わないことにも共感を覚え、メゾンヌーヴ、ジャンヌ・マンスそしてマルグリットは、先住民族との絶え間ない戦いの中にあっても、かけがえのない友情を育んでいくことになりました。一方で、荒涼とした 11 月半ばのモンレアルに到着してからは、想像していた教育活動とはかけ離れた生活をすることになっていきます。入植者建立の山の十字架の修復、彼らの安全な祈りの場所としての『よき助けの聖母聖堂』の建設準備、そして日々の兵士たちの服の繕いや料理等。しかし、このすべての体験は､彼女にとってシスターとしてまた教育者としての在り方を学んでいく時となりました。

2. やがて 1658 年 1 月、最初の学校を建てるために、メゾンヌーヴ氏から家畜小屋を譲渡され、神の望みが実現する日が訪れました。マルグリットは、教会建設を始めた時と同じように、家畜小屋を教室へと変えるために子どもたちと共に働き、共同体の絆を深め、自分たちのものという意識を高めたのでした。2 階建ての小屋の 2 階は、マルグリットと近い将来彼女の同志となるであろう姉妹たちの寝室となりました。奇しくも、聖母マリアはイエス様をお産みになったその馬小屋で、羊飼いや博士たちを同じ愛をもって迎え入れました。これから聖母の生活を模倣しようとする共同体にとってこれ以上の場所はなかったのです。

3．モンレアルの町に子どもたちが増え、マルグリットの学校も一人では手に負えないほどになってきた頃、同じように病院の仕事の継承者を考えていたジャンヌ・マンスと共に、仲間を募るためにフランスへの船旅に出かけました。帰船では、彼女を慕う 4 人の志願者、新天地で家庭を築くことを望む 18 名の若い女性（王の娘と呼ばれる孤児たち)、何組かの家族とジャンヌ・マンスの同志 3 名が、モンレアルにやってきました。遠い異国へと娘を送り出す志願者の一人の父親の心配が、いつの時代も同じであることを示しています。「モンレアルではどんな生活をするのですか？」「私たちには家畜小屋があり、パンとポタージュをお約束します。そして生計のために働きます。」しかし、相変わらずモンレアルには危険がはびこり、毎晩小屋の 2 階の寝室に昇る外の梯子を外さなければなりませんでした。おまけに学校は、王の娘たちの仮宿泊所となり、通夜や婚約署名の場所としても使用されていました。その後も新しく入植する王の娘たちのために、1662 年に払い下げられた土地で農場の耕作を始めました。町育ちの娘たちには、開拓地の家庭生活に必要となる農作業や家事を教え、姉妹たちは、家畜を飼い、自給自足生活によってコングレガシオンの生活の礎を築いていくことになりました。

4. 17 世紀のヨーロッパでは考えられなかった禁域制のない修道会の実現は、この新大陸の宣教でこそ必要であり、マルグリットと姉妹たちは、真に神が備えた『時の女性』だったと言えるでしょう。マリアが山里を越え、身重のエリサベトを訪ねたと同じように、彼女たちは『旅する宣教』として、どんなに奥地であっても、二人一組で馬に乗って出かけていき信仰教育をしました。子どもたちにとっては、これが生涯で受けられる唯一の宗教教育だったかもしれません。

５．1660 年代半ばに、友情を育みながら苦楽を共にしてきたメゾンヌーヴ氏が、突然フランスに召喚されてしまいました。同じ頃、モンレアルの人口は爆発的に増え、マルグリットたちにも、入植者家族を支え子どもたちを教育する仕事が増大しました。カナダ最初の司教フランソワ・ド・モンモランシー・ラヴァルは、コングレガシオンのシスターたちの仕事はもちろん生活の仕方にも感銘を受け、広い教区内での宣教に認可を与えました。彼女たちは開拓民と同じように極度の簡素さの中で、人々が必要とあれば、持ち物を供する生き方を貫いていたからです。マルグリットの小さな共同体は、任された広大な地域での宣教に応えるために、神への奉仕の志を持つ仲間をもう一度集める時が来ていると感じていました。2 回目のフランスへの旅は、実務能力に長けたマルグリットによって、よく準備されものでした。なぜなら、同志を集めると同時に彼女たちの活動を継続するために、フランス国王から正式な認可を受けるという大きな目的があったからです。関係する人々に助けられながら、ついに 1671 年ルイ 14 世によって、コングレガシオン・ド・ノートルダム・ド・モンレアルは、法的組織として認められることになりました。しかし、ローマから修道会として認可されるまでには、まだまだ遠い道のりが続くことになります。

６．最初の入植者たちが建てた山の十字架の村は、1665 年に先住民族たちとの平和が確立され、スルピス会（司祭たちでつくる会）会員たちが宣教をはじめるとすぐに、コングレガシオンの姉妹たちも派遣されることになりました。神の望みを自らの望みとするマルグリットにとって、先住民族もまた神に愛された者としての尊厳があり、その文化、生活様式は尊重されるものであるとの認識でした。やがて彼女のこの姿勢が、コングレガシオンに先住民族の娘たちの入会を促すものにもなっていき、現代の国際修道会コングレガシオン誕生秘話でもあります。会員たちは、次々に新しい支部に派遣され、女性と子どもたちへの教育に力を注ぎました。1678 年マルグリットの長年の夢であった聖堂が完成し、2 回目の旅で、トロワのファンカン男爵から寄贈された小さな聖母像にあやかって『よき助けの聖母聖堂（ノートルダム・ド・ボンスクール)』と名付けられました。

７．宣教が軌道に乗り、新しい会員を次々に受け入れることはまた、相互一致の難しさを抱えることにもなりました。マルグリットは、会員の神における霊的一致のためには、具体的な表現による会憲が必要であると考えていました。当時フランスで、コングレガシオンと似た禁域制のない会が聖会法的認可を初めて受けたことを知り、3 度目のフランスへの旅を決意することになりました。しかし、この渡航の裏には、誰にも話すことのできないマルグリットの霊的苦悩が隠されていたことも確かでした。彼女は、自分を知らない、何の関りもない霊的指導者からの助言を強く希望していました。この旅では、パリに戻っていたラヴァル司教から厳しい反発を受け、会員の募集を禁じられたことで、以前のようにフランスから会員候補を伴うことは叶いませんでした。

コングレガシオン・ド・ノートルダム修道会 創立者生誕 400 周年特別寄稿（その 3）

「聖マルグリット・ブールジョワ　神にお返しする命」

1. 1680 年代に入ると、モンレアル出身の入会者が増えましたが、ここからの 10 年間は、コングレガシオンにとって惨事と喪失の時代でもありました。若い会員の病死や修道院の全焼火災によってマルグリットの後継者候補の 2 名の姉妹も失いました。しかし、彼女は、憔悴する自分を神の眼差しに向け、今こそこの地で神が望まれることを果たすために、無から立ち上がるべく再建に没頭しました。この後も会は何度か火災に見舞われましたが、その度に会員はマニフィカト（聖母マリアを讃える歌）を歌っています。苦しい時こそ真の信仰を表す時だからです。

２．1689 年、これまで比較的平和だったモンレアルに、怪しい戦争の雲行きが広がってきました。仏国と英国による北米の毛皮貿易を巡る闘争に端を発した争いが、10 年間続いたのです。この激動の中で、マルグリットは、思いもよらない人生の霊的暗黒期に入ることになりました。それは一人の会員シスタータルディによるこの言葉から始まりました。「自分が昨夜かまどの傍らにいた時、16 カ月前に死んだシスターが『神から遣わされて来ました。コングレガシオンの長上に地獄に陥る状態にいると伝えてください。』と言いました」。2 か月後にまた別のメッセージを告げました。『この長上はまだなすべきことをしていません。私はこれから天国に行くのでこれが最後の警告です』。シスタータルディのこの悪魔的発言の背景には、戦争の恐怖と災難は、モンレアル創立当時の理想に対する人々の不忠実さからくるものであり、それは紛れもなくリーダーたちの怠慢である、という発想がありました。さらにシスタータルディを助長させたのは、会員、司祭や信徒の中にも支持者がいたことです。真摯なマルグリットは、それまでの自分のリーダーシップに問題があったのではないか、本当に大罪に値するのではないかと感じ始め、その後 50 カ月もの間苦しみ続けることになりました。さらに会の創立期からいた 2 人の姉妹の死も、追い打ちをかけるように彼女の孤独と孤立を深めていきます。しかし、このような中にあっても、マルグリットは長上としての責任を果たし、神への希望を失うことはありませんでした。「私が不幸な状態にあることを否定することはできませんが、それでも神の憐れみを疑ったことは決してありません。たとえ片足を地獄に突っ込んでも、常に神に希望を持ち続けるでしょう」と書いています。やがて、彼女を苦しめ続けたこの出来事の関係者である司祭たちはフランスへ召喚され、シスタータルディも共に去りましたが、苦悩が取り去られることはありませんでした。ところが、その日は突然やってきました。「窓が開いて光が暗闇を突き通すように突然解放されました。このようにしか表現することはできません」。

３．1693 年若い姉妹シスターマリー・バルビエが、マルグリットの後継者として選ばれ、マルグリットは、経験の少ない姉妹たちを陰で支える立場へと退いていきました。しかし、コングレガシオンを教会から認可を受けた正式な修道会にする、という彼女の役割はまだ途上でした。当時のセン・ヴァリエ司教の考えとコングレガシオンの本質との折り合いがつかず、会憲の完成まで 4 年以上の闘いが続きました。神からインスピレーションを受けた創立者にとって、会員の生き方そのものである会憲は、決して譲ることのできない宝物なのです。

４．会憲がなかなか完成されない中、1695 年コングレガシオンは稀にみる恵みを受けることになりました。独自の召命を持った一人の女性、ジャンヌ・ルベールです。彼女は裕福な家庭で生まれ育ち、コングレガシオンに聖堂の建物を寄贈し、その至聖所に接続した小さな部屋で永久隠遁生活をすることになりました。彼女は、聖櫃を指さしながら「あそこに私を惹きつける磁石があるのです」と言っていました。彼女は、イエスの間近で、コングレガシオンのミサで使われる祭服や聖品に刺しゅうを施しながら、その一生を神に捧げました。彼女の祈りが当時の姉妹を支え、異なる召命でありながら、私たちの仲間であることにちがいはありません。

５．1697 年フランスからセン・ヴァリエ司教が戻り、マルグリットの念願であった会憲が正式に教会から認可されました。1698 年 6 月 24 日会憲の受理に署名し、翌日姉妹たちと共に、清貧・貞潔・従順の誓願を、7 月 2 日には終生誓願を宣立しました。カナダに渡って 45 年、正式にシスターマルグリット・ブールジョワとなったのは ７８歳の時でした。その後、穏やかな晩年を古参の友シスターカトリーヌ・クロロと共に過ごしましたが、1699 年 2 月に、その友も神のもとへと旅立ちました。

６．1699 年の大晦日の朝、33 歳の若い修練長シスターカトリーヌ・シャルリが、重病のため臨終を迎えようとしていました。これを聞いたマルグリットは神にこう尋ねました。「なぜ、今はもう歳をとってお役に立たなくなった私ではなく、会においてこれからまだ多くのことができる若い会員を取り上げられるのですか。」この時から、マルグリットが病に伏し、逆にシスターカトリーヌ・シャルリが快方に向かっていきました。彼女のこの愛の行為は、自分の命を明け渡すだけではなく、若い会員たちに、コングレガシオンを喜んで託していくことだったのです。こうして、1700 年 1 月 12 日、神の望みに応えた続けたシスターマルグリット・ブールジョワは、天に昇って神のみ顔を見ることになったのです。葬儀の列には、モンレアルでかつてなかったほど大勢の人々が、彼女を慕って押し寄せました。それは、いつも人々と共に在り、小さく貧しく謙遜に生きること、会員たちに常々言っていた「キャベツやカボチャのように小さく謙遜でありなさい」のことば通り生きた彼女の証でした。

７．1878 年 12 月 7 日教皇レオ 13 世によって尊者の宣言がなされ、教皇ピオ 12 世によって 1950 年 11 月 12 日福者に、そして 1982 年 10 月 31 日教皇ヨハネ・パウロ 2 世によりローマのペトロ大聖堂で列聖されました。モントリオールのノートルダム・ド・ボンスクール聖堂に、聖マルグリット・ブールジョワのお墓と彼女が大洋を渡って携えてきた小さな『よき助けの聖母』像が安置されています。

８．この寄稿の（その１）に添付された聖マルグリット・ブールジョワの肖像画から、皆さんはどんな女性を想像されたでしょうか。

　コングレガシオン・ド・ノートルダム・ド・モンレアルの会員である私たちは、聖母マリアに倣う精神をもって生きています。身重のエリザベトを訪ねたマリアのご訪問と聖霊降臨を受けた教会を弟子たちと共に育てたマリアの姿。それは、創立者の言葉から次のように示されています。「私が今まで熱烈に望み続けてきたこと、そして今もなお切に望んでいることは、万事に越えて神を愛し、自分を愛するように隣人をも愛しなさいという大いなる掟が、すべての人の心に刻まれることです。」

Sr.高橋香久子著